

ひらく

○一点を支点としてひらく ●窓・扉をひらく ○道をひらく ○口・目をひらく ●花がひらく ●運をひらく ●文化をひらく ○インターネットをひらく ●新聞・本をひらく ●講座・会をひらく

— 未来をひらく、心をひらく —

特集

わかちあうということ

ハウスシェア / オフィスシェア
シェアビジネスが始まったわけ

いきいきレディ

ドーバー海峡横断

津城 清子さん



29

男女共同参画社会をめざす

男女共同参画センター“ひらく”最近の動き

センター便り・No.13

男女共同参画センターが変わりつつあります。

男女共同参画センターに最新型の薄型液晶テレビが設置されました。テレビ番組は視聴できませんが、DVDが見られるようになりました。青少年センター事務室のスタッフに声をかけていただければ、DVDプレーヤーをお貸しします。ご利用ください。

男女共同参画に関連する書物やDVDが並んでいる書棚が、きれいになりました。古い資料を整理して新しい資料と入れ替えました。広報誌『ひらく』で紹介された書物もここにあり、どなたでも読むことができます。貸出もやっています。

食器棚には、利用される方のために

コーヒー・カップやサーバーが用意されています。使ったカップをスタッフルーム前にある水道で洗って、食器棚にお戻しください。

そして、スタッフに声を掛けパソコンを借りて、参画センターにあるプリンターにつなげば、話し合いのための資料などを印刷できます。



6月の参画週間にオープンしたひらくカフェ

男女共同参画推進審議会から

参画センターの機能の見直しを進めている小平市男女共同参画推進審議会は、6月24日に行われた会議で課題ごとの意見集約を行いました。

開設以来置かれていない専従職員については、「市民が相談できる専門員、学識経験者を」「毎日が無理なら週1か週2置いてほしい」「利用者を増やして活性化するにはPRも必要であり、利用が増えれば対応する職員が必要になる」など、「配置が望ましい」との意見が出ました。

昨年1月から行われてきた「参画センターの機能の見直し」は、いよいよ「まとめ」の審議に入ります。

岩手県宮古市で編み物プロジェクト始動!

WWB/ジャパン ウェブ版うおっちら
写真提供: 山口勝即氏



7月16日、17日と連続で、宮古市男女共生推進センターと一緒に、編み物で仕事・生きがい創りの講座を実施しました。震災以来、男女共生推進センターもイベント・講座などを全く実施しておらず、今年度初の行事だったそうで、所長・スタッフの皆さんも総出で応援してくださいました。

今、私たちが被災地応援の一環として

全国から使わない毛糸などを集め、デザイナー三園麻絵さんの協力の下、原料代をかけずに編み物でお小遣い稼ぎをしようという企画を立て、先月は会津若松で実施しました。今回、15名募集をかけたところ、締め切りの1週間前に定員オーバー。年代層も40代～80代まで、やる気満々で集まってくださいました。

編み解いた糸をまっすぐに伸ばす方法、編み方の基礎、どうやって商品にしていくのかなど、三園さんと共に私も皆さんの輪に入ってお話をさせて頂きました。

約6万人の人口の宮古市で避難した沿岸部の人たちが推定で1万3千人。山の上などに住んでいる人たちは地震による影響はほとんどなかったようですが、一人暮らしの高齢者は今後が心配になったり、配偶者の実家が被災したり、湯船を見ると津波が押し寄せた時の黒い水を思い出してしまっている方々もいます。

が、辛い体験をしている方たちがたくさんいます。

しかし、今回の生きがい・仕事創りを目的に皆さんが集まっておしゃべりしたり、辛いことをしばし忘れて夢中になって編み物をしながら過ごすことで癒されたり、作品が出来る達成感も味わって頂いたようで、当初の企画した想いと合致しました。これからも月に2回、男女共生推進センターで集まることになりました。早い人は1つ目の作品を完成する勢いです。今後も少しずつ応援の輪・地域での繋がりを広げていきたいと思えます。(文 奥谷京子)



WWB/ジャパン:Women's World Bankingの日本支部



ひらく

第29号
平成23年10月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

相京香代子 北川 紘二 坂岸 真子
笹 和紀 笹尾かをる 佐野 里美
鈴木 裕子 谷原 裕子 藤澤 則子